富士河口湖高校同窓会だより

河高北陵館通信

Vol.37

山梨県立富士河口湖高等学校
同窓会事務局

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 6663－1 TEL 0555-73-2511 FAX 0555-73-2513 http://kawako-dosokai.net/

ごあいさつ

校長
小川 弘一

同窓生の皆様には、平素より本校の教育活動に対し、御支援、御協力、御理解を賜り心より厚く御礼申し上げます。また、本年度は、同窓会創立４０周年、誠におめでとうございます。皆様方のお力添えのもと、在校生、教職員、共々教育活動に勤しんでおります。

本年度、富士河口湖高校に異動してまいりまして、同窓生の皆様の本校に対する暖かな母校愛を常に実感しております。同窓会の皆様を中心に、多くの同窓生の皆様方に御支援、御協力を頂きました。

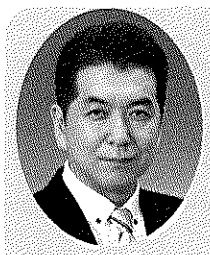
特に富士河口湖町役場、富士吉田市役所、消防署、警察署、富士吉田市商工会、大学等多くの関係機関の同窓生の方々には直接学校へ足を運び、本校の発展を推進していただいております。

多くの同窓生の皆様は、自分が何期生かを知っております。教職員の「～さんは○期生だったね。」という会話もよく耳に入ってきます。そこから繋がりが更に発展していくことが何度かあり、絆の強さを改めて感じることができました。今年度は２０２０年度版同窓会名簿も完成し、同窓会活動の目的である会員相互の連絡、親睦がより深まるものと確信しております。

今の時代は、多くの社会問題がますます深刻さを増しています。私たち学校教育現場でも、人口減少や少子高齢化による生徒数の減少、働き方改革、高校教育・大学教育・大学入試の高大接続三位一体改革、スマートフォンによるＳＮＳの課題、人工知能・ＩｏＴによる就業システムの大きな変化等、これらに対し足元をしっかり見据えて対峙し、対応していかなければなりません。このような状況でも、本校生徒が「心のゆたかな人間」として、社会に貢献し、幸せを自ら掴んでいけるように、私たちは日々教育活動にあたっております。今後とも本校教育への御支援、御協力・御理解を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、同窓生の皆様と、同窓会の今後ますますの御発展を祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

「つなぐ」



同窓会長
天野 績男（四期生）

日頃より本会活動へのご理解と、母校への多大なる御支援と御協力をいただいておりますことに対して、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、この度、富士河口湖高校同窓会４０周年を記念し、前校長田口尚弥様、並び小川弘一校長先生、５期生の渡辺繁博先生、１０期生の宮下一幸先生をはじめとする先生方、曽根肇事務長をはじめとする事務室の皆様、そして、同窓生の皆様のご協力を得て、卒業生名簿を発行することになりました。

発行するに当たり、個人情報の保護については、慎重に配慮し、会員個々の意志確認を尊重させていただきました。同窓生の氏名を含む情報が一切掲載されていないところもありますが、できる限りの調査を繰り返し行い、現時点では、とても完成度が高い名簿が出来たと思っております。

今回の同窓会名簿が、同じ学び舎で青春時代を過ごした者同士をつなぐ役割を果たし、クラス会や同期会を開催したり、情報交換をすることで同窓の交流やネットワークが構築されること、同窓会の目的である会員相互の親睦が深まることを大いに期待しております。

富士河口湖高校は、在校生の４割近くが3ケ年皆勤賞を受賞し、大手教育事業者の調査においては、県内で成績が一番伸びた学校という結果をいただいております。

「学校に来るのが楽しい！将来先生になりたい。」と目を輝かせて話す在校生から元気をいただいております。

そうした様子や、四季折々の自然に囲まれた校舎が、富士河口湖高校のホームページでタイムリーに紹介され「楽しい思い出が甦り、すごく元気になった。癒された。」という卒業生の声が沢山届いておりますので、ぜひ、富士河口湖高校で検索して、ご覧下さい。

最後になりますが、Ｎｅｘｔ５０周年にむけて、さらに富士河口湖高校同窓会の絆を深め、つなぐために同窓会役員一同、精一杯頑張りますので、引き続き御支援、御協力をお願い申し上げます。

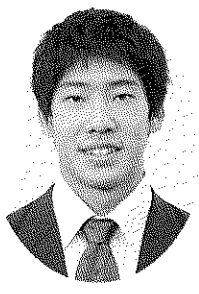
近況報告

「今までを振り返って」

10期 渡辺 三雄

31年前の年始に平成という時代が幕を開け、その新しい時代と共に我々は河高を卒業しそれぞれの新しい道を進み始めました。改めて振り返ってみると、我々が河高で学んでいた頃はまだ昭和で、色んなものがかなりアナログな感じでした。今では当たり前になっているインターネットやＳＮＳが時代の中心になるなんて全く想像もつかない頃でしたが、世はバブル景気に酔いしれ、輝かしい未来が待ち受けていると誰もが思っていた、古き良き時代でした。その後は時代は急速に変化し、誰でもスマホ一つで世界と繋がる様な世界となり、元号は平成から令和へとなりました。一昨年に、卒業後２０年後に開催される同窓会から１０年ということで、同窓会を開催しました。規模は１００名弱とこじんまりとした形でしたが、皆それぞれ歳を重ね容姿の変化が見られますが、懐かしい顔は昔を思い出させて、予想に反し大いに盛り上がり3次会まで多くの参加者が集い、改めて河高を感じることができました。その後は、ライングループ等で連絡を取るようになり、それぞれの近況も以前よりは把握できるようになりました。そんな中、1月2日の箱根駅伝で、河高卒で東洋大学の宮下隼人君が5区区間新という快走を見せて、その話題で年始よりラインで大騒ぎし、改めて河高というキーワードで繋がっているんだなと感じました。

河高も、伝統ある制服が時代の流れとともに変更されると聞きました。変化する事は決して悪いことではありません。しかし、目まぐるしく変化を遂げるこの世の中で、変わらなくていいもの、変えてはならないものもあるのではないでしょうか。いつまでも河高に対する感謝と愛情は変わらずに、これからも持ち続けていこうと思います。樹海から流れてくる富士の冷たい風のように。



「同窓会総会に向けて」

第41回山梨県立富士河口湖高等学校
同窓会総会実行委員長
渡辺 伊作

在学時、生徒会役員ではなかった私がこのような大役をあずかることになり、身の引き締まる思いです。役員をはじめとする同窓会会員の皆様、先生方、在校生の皆様、関係各位の皆様、実行委員をはじめとする22期生の皆様には、多大なる御支援を賜り心より御礼申し上げます。皆様の御尽力によって築き上げられてきた伝統を絶やさぬよう、また母校と地域の更なる発展に少しでも寄与できるよう努めてまいる所存です。

さて、今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年でもあります。総会が開催される7月には、日本中・世界中がオリンピックムードに沸き立っていることでしょう。史上2度目の東京オリンピック…。

在校生だった頃を1度目の青春とするならば、卒業後20年目を迎える私共にとって、同窓会は2度目の青春とも言えます。実行委員会が始動して以来、まるで高校時代に戻ったかのように仲間達と密にやりとりをする毎日です。一方で、ある別の同級生とは卒業後初めて連絡を取るという場面もありましたが、それでも当時と同じように会話を交わせたことで、同級生という存在の有難さを改めて感じています。また、活動を通して新たな出会いもあり、実行委員にならなければ経験できなかったであろう貴重な時間を過ごさせて頂いています。こうした準備期間なども含め、「私共22期生の同窓会は既に始まっている」ことを実感しています。

「オリンピックで重要なのは、勝つことではなく、参加することである。」とはあまりにも有名な言葉ですが、22期生の皆様には、この同窓会という名の「2度目の青春」に1人でも多く「参加」して頂けることを強く願っています。

祝 東京オリンピック カヌー競技 28期生 藤嶋大規君 出場

新生徒会長より

『よりよい河高を作るために』

43代生徒会長 渡邊 翔栄

私は、第四十三代生徒会長を務めさせていただく渡邊翔栄です。私はよりよい河高を作るために、日々の生活や一つ一つの行事を大切にしていきたいと思います。河高は昨年度から部活動と生徒会が連携して行う、あいさつ運動を実施しています。部活動の人たちと一緒にあいさつ運動を行うことによって、朝の校舎にあいさつの声が響き渡り、気持ちよく一日をスタートすることができます。この活動は河高の大切な伝統の一つとして来年度も行っていきたいと思います。

行事については特に紫光祭を大切にしていきたいです。生徒会最大の行事である紫光祭を良いものにするために、生徒の声に耳を傾けていきたいです。皆さんの要望を聞き、内容を吟味し、取り入れられる部分はしっかりと取り入れたいと思います。そして、私たち生徒会本部も昨年度までの反省を生かして、河高生全員が思い出に残る紫光祭を作りたいです。

私は、これからの一年間、以上のことを実現するために生徒からの意見を取り入れたり、私たち生徒会本部をどうすればよりよい生活が送れるかを考えていきます。生徒会本部だけでなく全校生徒一丸となってよりよい河高を作っていきたいと思います。

今年の同窓会総会・懇親会は 2020年7月4日(土) 開催決定!!